

「だざいふ・ふるさと学習」の推進

本市の魅力を探り発信する 中学校「総合的な学習の時間」の取組

太宰府市教育委員会

1. はじめに

太宰府市は、福岡市近郊に位置し、古来よりアジア諸国とのつながりが深い場所である。太宰府市には世界遺産はないが、大宰府は、古代日本の重要な拠点であり、唐や奈良の都にならって築かれ、東アジアの先進文化と日本の文化とが行き交う場所であった。それは現在も太宰府市の随所にみられ、日本を代表する古都として人々を魅了している。さらに、改元により太宰府市が新元号「令和」発祥の地として大きな脚光を浴びることになり、多くの観光客でにぎわっている。

太宰府市には小学校が7校、中学校が4校あり、地域の歴史や文化を活かした教育活動を展開している。本市では、郷土を愛し、誇る児童生徒の育成をめざし、教育施策の1つとして「だざいふ・ふるさと学習」を推進している。

2. 教育目標

学校教育の目標：郷土を愛し地域とともに生き、自ら生きる力を培うことのできる児童生徒の育成
だざいふ・ふるさと学習の目標：太宰府を愛し、誇る児童生徒の育成

3. 教育委員会・学校での取組

本市教育委員会では、「だざいふ・ふるさと学習」を推進し、市立全小・中学校に配付している「太宰府の歴史と文化を学ぶ副読本」を活用した取組、歴史・文化体験の取組、児童生徒の地域行事への参加・参画等を支援するとともに、教育委員会主催の「だざいふ・ふるさと学習推進委員会」において、各校の特徴的な取組についての情報交換などを行っている。本稿では、本市の魅力を探り、地域の方や修学旅行先で出会った方に本市の魅力を発信する取組に関する事例を報告する。

＜実践事例＞ 「太宰府市の魅力を探り発信する」

太宰府市立学業院中学校 総合的な学習の時間の取組

1 ねらい

太宰府市の歴史や史跡、文化等について知り、パンフレットの制作と情報発信を通して、郷土のよさを伝えていこうとする気持ちを高める。

2 計画（5時間）

時数	内容
1	○ふるさと学習について知り、学習課題を設定する。
1	○G Tによる講話 太宰府市役所観光推進課職員、太宰府市教育委員会文化財課職員
2	○各自の学習課題を決める。 ○タブレットで自分が選んだ学習課題について調べる。 ○調べ学習や調査活動を行い、タブレットを使用してレポートを作成する。 ※時間内に作成できない場合は、休み時間や家庭学習で作成する。

1	○各自のレポートを班で発表し、班の代表を決定する。 ※パンフレット実行委員（2～4名）を決定する。 ○パンフレットに使用する原稿等を話し合いで決定する。
○授業時間外や夏季休業中に、パンフレット実行委員会がパンフレットに使用する写真や画像、原稿について話し合い、学級全体に提案しながらパンフレットの制作に取り組む。	

3 活動の実際

(1) GT による講話

太宰府市役所観光推進課職員、太宰府市教育委員会文化財課職員からは、「太宰府市の概要」「太宰府の観光素材」「太宰府市の歴史や史跡」について話していただくとともに、太宰府市の観光の現状と課題及び課題解決の手法を次のように伝えていただいた。



GT による講話の様子

◇現状：最盛期は国内外からの年間観光入込客 1000 万人を数える「国際観光都市」。

令和 2 年にコロナの影響で急激に落ち込み、令和 5 年度から徐々に回復している。

◇課題：太宰府天満宮への参拝が大部分を占め、大宰府政庁跡周辺エリアへの回遊性に課題。

滞在時間、消費単価が低く、観光客の多さに比べ経済効果が低い。

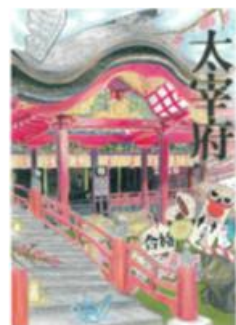
◇課題解決の手法

○太宰府天満宮だけではなく、太宰府市の歴史的文化遺産等を発信し知ってもらう。

○地域にある歴史的ストーリーや自然、食などの観光素材を絡める。

(2) パンフレットの制作

GT の話を聞き、生徒は自分たちが生活している太宰府市の歴史や史跡について知るだけではなく、現在の太宰府市が抱えている課題を解決するためには、太宰府の魅力を発信していく必要があると考えることができた。その後、各学級で太宰府市の魅力を発信できるパンフレットを制作し、地域の方や修学旅行先で出会った方に配付及び説明する活動に取り組んだ。



制作したパンフレット

(3) 修学旅行先での太宰府市の魅力発信活動

生徒は修学旅行で訪れた奈良や京都で出会った方に、自分たちで制作したパンフレットを渡し、太宰府市の魅力について説明する活動に取り組んだ。令和 6 年度は、地元の方だけではなく外国からの観光客にも積極的に英語で説明するという目標をもって魅力発信活動に取り組んだ。



魅力発信活動の様子

4. おわりに

本稿で紹介した「太宰府市の魅力を探り発信する」の取組は、他校の取組の参考となり、本市の他の中学校でも取り組まれている。このように、各学校の取組を市内の学校で共有することにより、各学校の「だざいふ・ふるさと学習」の取組が充実したものになっていくと考える。今後は、児童生徒にとって有意義な取組を継続するとともに、市内にある九州国立博物館を生かした歴史・文化体験を充実させたり、児童生徒の地域行事への参加・参画をさらに促したりしていきたい。